



Asai Mitsuaki  
浅井光昭さん  
住友ゴム工業(株)相談役、元同社取締役会長

座長・鈴木市長▼ 東日本大震災からの復興、さらには明日の白河を創るため、しらかわ大使の皆さんからアドバイスをいただきたいと思っています。

まず、阪神・淡路大震災を経験し、白河市に会社機能を移した経験がある浅井さんに、大震災のことについてお話ししていただきたいと思っています。

浅井光昭さん▼ 私も神戸で震災に遭いましたが、体験が大事と感じました。お年寄りには、この体験は初めてではないと話していただきました。それは戦争の爆撃でした。当時は木造でしたから、阪神・淡路大震災の状況よりもひどかった訳です。あのときのことを思えば、なんとかなるといふ希望が、みんなの心のどこかにあったんです。

神戸の震災では、ダンロップ神戸工場が閉鎖されました。しかし、今回の震災では、白河工場は11日間の休業で済みました。白河工場の早急な回復は、神戸での体

**提** 震災の体験を生かすことが大事である。  
◎浅井光昭さん

1 験・経験が大きかったと考えています。神戸の震災を経験した社員が各工場を回り、こういった場合はこうしようと伝えていったのです。現在では、災害の予防から復旧までの考えが会社で定着しています。午後2時過ぎに東日本の大地震があり、4時に神戸で緊急対策本部が設置され、次の日の朝には名古屋工場から白河工場に支援物資が届いていました。こういった経験は大切にしなければいけないと思っています。

また、道路やその他のインフラ整備を早急に進めることにより、雇用の面からも復興の効果があるのではと思います。先日、神戸市で懇談会がありました。神戸市では零細企業の倒産が非常に多い状況です。様々な融資がありますが、すべてつなぎ融資なんですね。それらの融資の対象にならない会社も多くあるのが現状です。行政が仕事を作ってあげるのも活性化させる一つではないかと考えています。

**提** 小峰城の復元を全国に呼び掛け、組織化を。  
◎田口信太郎さん

2 田口信太郎さん▼ 広報白河11月号の市長の手控え帖に「私たちは従順過ぎるのかもしれない。今は聞き分けのない駄々っ子にならなければ。福島は未来に責任を持つ者は、義のある喧嘩を避けるべきではないと思います」と書かれていました。非常に感動する言葉でした。私も(NHK)が作っている雑誌「ラジオ深夜便」に、東京工業大学の上田紀行さんも震災後の怒りの表明について、鈴木市長と同じように書いていました。東北人の物静かな面が世界から評価されましたが、実際の復旧復興が始まったときに現地から言葉を発していったほうが良かったのではと感じています。

今現在、一番発信力があるのは佐藤雄平福島県知事だと思います。知事は官邸に行つて福島の現状を訴え、場合によっては記者クラブや日本外国特派員協会などに伝えていくことが大切ではないかと思っています。

今後の福島県のブランドデザインを考えた官邸にもっと出向いて行つてほしいと思います。

宮城県石巻市の若者たちが被害を受けた牡蠣産地を支援しようとして一口1万円の投資プロジェクトを作りました。1年後には出資者に牡蠣が届くというのですが、小峰城郭の復元に応用できないかと思いましたが、国民に呼びかけ、石垣に名前を残すなどして、ファンを増やし、組織化していくのも活性化の手段だと思います。



Taguti Shintarou  
田口信太郎さん  
(株)NHKサービスセンター理事、元NHK福島放送局長

(6ページに続く)

11月25日、都内で「しらかわ大使委嘱状交付式及び懇談会」が開催され、新たに加わった川瀬七緒さんを含む7人に委嘱状が手渡されました。

今月号では、「白河市の復興」について、大使の皆さんが懇談の中で話し合った内容を抜粋してお届けします。



しらかわ大使 復興へのメッセージ  
届 空高く  
白河を元気に  
特集





Imai Syusen  
今井珠泉さん  
日本画家

——今井さんは、震災でダメージを受けた美術館などを守る活動を行いました。が、芸術の観点からお願いします。

今井珠泉さん▼ 岩手県・宮城県・福島県の美術館や博物館が多大な被害を受けました。それらを支えるため、日本全国の作家が作品を提供し、東日本大震災復興チャリティ・アート展を行いました。

私も市長と同様に「原発と福島の苦しみ」が風化していくのではなにか」ということに対し、とても不安を感じています。私は82歳になりますが、これまで日本の姿を見てきました。時が立つと忘れる傾向があり、被害を受けた人だけが常に苦しんでいるように思われます。被害を受けない人はその出来事を忘れてしまうような、苦しさを長く同調できない国民性があるのではと思います。

また、広報白河10月号に各集会施設の放射線量が掲載されています。そのような細かいデータを定期的に、しつこいと思われるくらい継続して掲載していくことはとても大切だと思います。



Kawase Nanao  
川瀬七緒さん  
第57回江戸川乱歩賞受賞作家

いでした。福島出身者でしたら、必ず福島に戻って来ると思っています。で、地元に戻ってくるような方策もおもしろいと思います。

川瀬さんの江戸川乱歩賞受賞は、市民に大きな元気を与えてもらいました。白河についてどのように感じていますか。

川瀬七緒さん▼ 故郷について書いた作品が江戸川乱歩賞を受賞し、郷土への想いが市民の方に少しでも届きになればと思っています。また、多くの市民の皆さんの声で私の勇気になりました。

私はパソコン世代なので、ブログやツイッターなどを見ると、白河商工会議所などの若い方が発信するおもしろい企画がたくさんあると感じていました。歌やイベントなど魅力的なものもあります。で、それらの情報が少しずつ広がっていくことを期待しています。インターネットなどを通しての若者による情報発信は、時代を動かす一つのキーポイントとなることは確かです。白河に住む若い方を発進していけば、新しい流れを作れるのではと考えています。

でも元気です。どのように安心を与えるのかは政治の仕事です。当然、不安感を取り除くには、科学的知見に基づくことが必要であり、それは原爆における長崎の研究やチェルノブイリ事故、スリーマイル事故などの分析です。政府に対しては、不安の除去をしていく努力を真摯に行っていたいただきたいと考えています。

今年には白河の産品をお歳暮として贈りたいと考えていました。私自身は白河の産品に対し、なんの違和感もありません。しかし、相手に白河の産品を贈る場合は、それを受け取っていただけるのかは「人」によります。市長の「これは安心です」というお墨付きの文書などがあるならば、物の動きを通して白河の元気を届けられるのではと考えています。

農産物の風評被害という問題に直面していますが、福島県に何度足を運んで現状も理解している野崎さんに食の観点からアドバイスをお願いします。

野崎洋光さん▼ 現地に行かないと誰も信用してくれません。人がその土地を歩いて愛着を持ったら、その土地のものを買おうとするものです。デジタル世代の人は情報だけで自分の足で歩くことをしません。以前、若い方にカップ麺は怖いよと話したら、それが理解されず、そのようなものを子どもに食べさせないというのはよほど愚かだと思っています。

また、白河にはおもしろさがあります。新幹線で東京から約1時間半足らずで着いてしまいま

提

原発と福島の苦しみを決して忘れないように。

◎今井珠泉さん

3

提

地場産業を育て、市外に出さない仕掛けが必要です。

◎戸井田和彦さん

4

消防団・警察官や自衛隊の活躍には本当に感激しました。人見さんは警察庁にいた経験から、危機管理についてお願いします。

人見信男さん▼ 安全・安心を理想に仕事を進めてきました。安全は比較できることですが、安心を与えるのは心の問題も含むので大変難しいと思います。しかし、福島はその逆になってしまいました。原発、そして放射能により安全が大きな問題となりました。

忘れやすい国民の傾向がよい方向に向かえばと考えますが、行政の責任者はそういう訳にはいきせん。どのように市民に安心感を与えるかが問題になります。広報白河11月号に放射線の専門家の意見が掲載されましたが、とてもよい企画だと感じました。

私の会社に勤務している方は、広島原爆の爆心地から2km以内に住んでいました。そのとき、その方の妹は母親の母体の中でした。が、現在でも健康です。父親は90歳で亡くなりましたが、母親は今

提

若者の情報発信は、時代を動かすキーポイント。

◎川瀬七緒さん

5

提

どのように安心感を与えるかは政治の仕事です。

◎人見信男さん

6

提

「もてなし」の気持ちは行政にも共通している部分です。

◎野崎洋光さん

ありがとうございました。

す。多くの人が勉強したいと考えており、文化を学んで遊ぶ、農業体験などもその一つです。若い人は本当は農業をしたいと思っています。しかし、そのレベルが整備されていません。例えば、東京でのマラソンは、ロッカーという設備があるからさらに人気なのです。新幹線で往復約1万2千円をかけたとしても白河に来るような遊ぶ場を考えることが大切です。それを一言で言えば「もてなし」です。私は店を立ち上げていますので、どうやったら人が喜ぶかをいつも考えています。払ったお金以上にお客が喜んでもらえるのが一番の喜びです。その部分は行政も共通している点だと思っています。

7



Toita Kazuhiko  
戸井田和彦さん  
㈱ファルテック代表取締役社長、元日産自動車㈱常務執行役員



Hitomi Nobuo  
人見信男さん  
㈱サン総合管理代表取締役社長、元警察庁交通局長・元警視庁副総監



Nozaki Hiromitsu  
野崎洋光さん  
「分とく山」総料理長